法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-29

編集記

中本，正智

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言
(巻 / Volume)
13
(開始ページ / Start Page)
206
(終了ページ / End Page)
207
(発行年 / Year)
1988-11-30

Hosei University Repository

編　集　記

この『琉球の方言』の創刊は1975年であるから、今年で13年をかぞえる。ほろびゆく諸方言を記録しておきたいとの思いが、創刊の動機となったのであった。できるだけ、臨地調査による生の資料をかかげるよう努力してきた。幸いに多くの方々のご協力をいただいてここまでくることができた。本誌は国内の大学や研究所から購入したいとの希望が多く、また海外から注目されていることは、この研究をすすめている者の一人として有難いことであり、さらに学問的に価値あるものをつくりたいとの思いが湧いてくる。今後とも、言語資料と理論研究の両面を合わせて編集していきたいと考えている。

本号から相当の決意で再発足することにした。内容をより充実していきたいと考えている。

八重山鳩間島方言の語彙について、沖縄県立芸術大学の加治工真市教授にお願いすることにした。

加治工教授は、琉球語についてのすぐれた研究者であり、言語論、文法論、語彙論を超えて、広く言語一般について研究をすすめている。加治工教授は鳩間島出身であり、自ら鳩間島方言を話してきている。ここに収めた鳩間島の語彙は、これを精密に記録したものであり、その学問的価値は、はかりしれない。

宮古島方言の語彙については、琉球大学の名嘉真三成助教授にお願いすることにした。宮古方言の若手研究者としてつとに知られていて、服部四郎博士の言をかりれば、比較言語学の方法を身につけた数少ないすぐれた研究者ということである。名嘉真助教授は、音韻論、文法論、語彙論、言語教育論に通じ、その豊かな学識を基礎に出身である宮古島西原の方言語彙を記述してもらった。

加治工教授の研究も、名嘉真助教授の研究も、研究の中途にあり、今後、その成果の発表を続けていくことにしている。

仲宗根政善教授の希いであった各地の『琉球語辞典』をめざし、『琉球語大辞典』の実現へ向かって、一歩一歩近づきつつあることは、誠に喜こびにたえないところである。これからも多くの研究者のご協力を期待したい。

文法では、活用の歴史を考えるために、拙論を置いて、二段系活用について、琉球列島の全域をみわたすことにした。

八重山西表島の音韻については、久野真助教授と大野真男助教授にお願いした。橋尾直和氏には徳之島のアクセントを報告してもらった。いずれも精密な調査にもとずいた成果

Hosei University Repository

である。

この夏、東京都立大学の中本と篠崎晃一助手が協同で沖縄方言の音響学的分析のためのアクセント調査を実施した。ここに報告した拙論は、その成果の一部である。アクセントについて、従来の聴覚的特徴からの研究と新しい音響的特徴からの研究を対応させながら分析した。この方法でアクセントの体系と変化が具体的にとらえられることが明確になった。新しく開発された音声の分析器機による研究がより言語事実の認識に必要であることを示している。今後はより科学的な考察が期待されるところである。

本号刊行にあたって、研究所スタッフの比嘉実さんと横田礼子さんの献身的なご協力があったことを記して、感謝を申し上げたい。

1988年11月 7 日
法政大学沖縄文化研究所所員
東京都立大学教授
中　本　正　智